



医療法人伯鳳会
大阪中央病院

「虹」

Vol.9

2022. 5月



特集

病院は看護師で成り立っています。

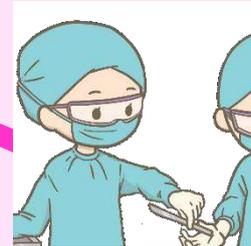
今回は

ナースのお仕事

特集です！



外来



手術室



健康管理センター



ナース七変化



入退院支援センター



病棟



検査室



健診看護には、看護師 21 名と内視鏡洗浄員 7 名が所属しており、人間ドックと一般健診での採血、上部内視鏡、子宮がん検診、胃透視を担当しています。各検査において、可能な限り不安や苦痛なく検査を受けていただけるよう、スタッフ全員で接遇面・技術面のスキルアップに取り組んでいます。安心・安全な検査環境を提供するために、笑顔と細やかな配慮を忘れず、チームワークでこれからも頑張ります。

健康管理センター



外来



外来部門には 2 階(内科・消化器内科・循環器内科・皮膚形成外科・眼科)採血室、3 階(消化器外科・肛門外科・乳腺外科・整形外科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・婦人科)があります。外来採血室の朝 8:30 から 9:00 は採血を受ける患者さんでたいへん混雑します。次の検査や診察をスムーズに受けいただけるように、この時間帯は採血室担当以外に 2~3 名増員して対応をしています。コロナ禍を受け、電話による診察や薬処方など、問い合わせがとても多くなりました。電話対応などの事務作業も外来看護師の重要な仕事となっています。限られた診療時間内に、医師が患者さんへスムーズに診察・検査ができるよう、外来看護師全員で、きめ細やかなサポートや気配りを行えるよう努めています。

手術室



2021 年 4 月よりペリオ外来(周術期管理外来)が開設され、術前から患者様の情報を外来・病棟・手術担当看護師で共有でき、より安全に配慮した手術準備を行っています。ダウイン手術や AI の活用、ロボット支援手術など、医療が発展していくなかで患者様に対して安心して、そして安楽に手術を受けることができるように手術室看護師、中材スタッフが協力して日々の業務を進めています。



ナースのお仕事



地域連携・入退院支援センター



2021 年 4 月、地域連携室が「地域連携・入退院支援センター」へと名称が変更となり、新設されました。当院で初めての MSW も就任し、看護師・MSW・事務員で協力して支援を行っています。入院前から、患者さんの身体的・社会的・精神的な生活背景を把握し入院への不安の軽減や退院後の療養がスムーズにできるように関わり、全診療科の全身麻酔で手術を受ける患者さんの支援を行っています。退院支援では、スムーズに退院ができ日常生活に戻れるよう、病棟や地域のケアチームと連携をとっています。

10 階病棟は泌尿器科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科を担当する混合病棟です。安心して手術に望んで頂けるようクリニカルパスを軸に細かな説明を行い不安の軽減に努めています。風通しのよいチーム作りをモットーに日々、カンファレンスを行いながら情報を共有し看護実践を行っています。刺激し合いながら患者満足度の高い看護を提供し、私たち自身も看護することの楽しさを味わえる病棟にしていきたいと思ひます。

10 階病棟



11 階病棟

11 階病棟は、循環器内科・内科・消化器内科・肛門外科の混合病棟です。循環器内科では、心臓カテーテルやアフレーション、LDL アフレーション治療を実施しています。内科では糖尿病教育入院を多職種と連携し、専任看護師が教育・指導を行っています。消化器内科は内視鏡治療を中心とし、肛門外科の手術など多岐に渡り対応しています。短期間での入退院が多く、忙しい中でも臨機応変に、丁寧な看護を心がけて日々頑張っています。



12 階病棟は、外科(消化器・乳腺・肛門)、婦人科、皮膚形成外科の術前術後の看護を受け持っています。生活の質を上げる治療を積極的に行っているため、入院患者層も 10 代~90 代まで多岐にわたっています。このため、入退院支援カンファレンス、術後せん妄や認知症ケア、転倒や褥瘡予防にも力を入れています。また、コロナ禍でも安心・安全に入院・手術が受けられるよう、オンラインを活用した面会や手話、通訳の実施にも取り組んでいます。

12 階病棟



4 階検査室では検査全般を担当しており、内視鏡や、血管造影検査等に従事し、治療・検査終了まで患者さんが安心できる雰囲気作りを心がけています。検査前に病室訪問し疑問や要望を確認して不安の軽減に努め、消化器内視鏡技師資格取得・更新など、新しい知識・技術の習得や専門性の向上を図っています。検査部門のため、放射線技師、検査技師、臨床工学技士といった多職種とより連携・協働して、安全な治療・検査を提供できるように取り組んでいます。

4 階検査室



大阪中央病院看護局では看護局の理念である「共にあゆむ最善の看護」を基本に看護を実践しています。私達が看護を実践していく上で大切にしていることは「安全で良質な看護の提供」です。

143床の規模の病院だからこそ多職種間で連携を図り、顔の見える関係性が急性期における質の高い看護サービスにつながります。またキャリアラダーによる継続教育を行い、専門職としての知識・技術・態度を磨き、看護職員の成長とライフバランスを大切に、やりがいを持てるよう取り組んでいます。「大阪中央病院で医療・看護を受けて良かった」と思っていただけの日々進化し続けようと思います。



看護局長 大谷 敦子

編集後記

病院の基本は人（スタッフ）です。スタッフの半数以上は看護師です。看護という最も大切な業務を行ってくれますが、地味で注目を浴びにくい職種です。今回は看護師に焦点を合わせて当院の素晴らしさを表現できたと考えます。きめ細やかな看護で最高の医療を提供し続けられるように更に努力していきます。

病院レポート「虹」

2022年5月発行 Vol.9

編集・発行

医療法人伯鳳会大阪中央病院
広報委員会

〒530-0001 大阪市北区梅田 3-3-30

TEL 06-4795-5505(代表)

FAX 06-4795-5544

◆地域連携・入退院支援センター

TEL 06-4795-5533(直通)

FAX 06-4795-5535(専用)



その車は、走る病院。

災害医療車「Medical-ConneX」メディカル・コネクス

医療法人 伯鳳会がコンセプトを描き、第一号車を導入した災害医療対応のモビリティ・ソリューション。世界初(※)の免疫・生化学検査機器とCTを同時搭載し、COVID-19などの感染症にも対応が可能。検査車両と電源車両からなり、水やエネルギーの外部補給も不要。AI診断とITを駆使し、災害医療支援を即座に展開する。



※CT装置と生化学・免疫装置を同時搭載した移動型医療ソリューション。シーメンスヘルスケア調べ



Plus Heart Action



病院ホームページ

#青いハートがあふれる社会を

医療をつなぎ、未来をつなぐ。多くの命を救うために。



伯鳳会グループ
HAKUHOKAI GROUP



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



医療法人伯鳳会
大阪中央病院
HAKUHOKAI Osaka Central Hospital